

助産師ラダー

		レベル新人(新人)	レベルⅠ(2~3年目)	レベルⅡ(4年目)	レベルⅢ(5~8年目)	レベルⅣ(9年以上)
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 助産外来・院内助産について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産外来においてケアを提供できる 3. 先輩助産師とともに、院内助産におけるケアを担当できる 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. 助産外来において、個性性を考慮したケアを自律して提供できる 3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 4. 院内助産において、自律してケアを提供できる 5. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる	1. 創造的な助産実践ができる 2. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 3. 院内助産において、指導的な役割を実践できる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかわりができる
助産実践のために必要な知識と技術	感倫応力的	ケアリングの姿勢 ・ケアリングとは(主要な理論の理解)		・助産実践とケアリング(理論の実践への適用)	・自己の振り返り(OJT) ・ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての自らの姿勢を自己評価する ・複数で共有し意見交換する	
	マタニティケア能力	助産実践能力 (妊娠・分娩・産褥期・新生児期の診断とケア/分娩期の配慮の視点)  マタニティケア能力(助産実践能力)の評価については、レベル新人は『新卒助産師研修ガイド(日本看護協会)』のチェックリスト(表3-7)、レベルⅠ~Ⅲは『医療機関における助産ケアの質評価:第2版(日本看護協会)』のチェックリスト(表3-8)に			【知識編】 ・ローリスクからハイリスクまでの妊娠・分娩・産褥期にある女性の心理 ・正常な妊娠・分娩・産褥期の経過とケア ・ハイリスク妊娠・分娩・産褥:主要な疾患に関する病態とケア(切迫流産、PIH、前置胎盤、多胎、GDM、FGR) ・新生児の解剖生理学的特徴とそれに基づくケア ・ハイリスク新生児の特徴とケア ・ハイリスク新生児の家族へのケア ・助産記録:記録の原則・家族参加型記録の意義と方法など ・胎児心拍モニタリングの判読(基礎・応用) ・検査データの見方 ・臨床薬理(含む陣痛促進剤) ・母乳育児に関して 【実践編】 ・NCPR(BCコース):定期的に講習会開催 ・母体救急 ・フィジカルアセスメント(脳神経・呼吸循環・代謝・新生児) ・静脈注射 ・仰臥位以外の分娩	【知識編】 ・院内助産対象者の選定の基準 ・分娩入院時、院内助産対象基準からの逸脱の判断 ・アセスメント・計画立案に対しての指導
	到達の条件	分娩介助 新生児の健康診査 妊娠期の健康診査 産褥期の健康診査 プライマリー(妊娠・分娩・産褥期)ケース 集団指導(含む小集団指導) 母親学級・両親学級 緊急時の対応(BLS、多量出血等) 【必須研修】NCPR(BCコース) CTG フィジカルアセスメント 輸液ポンプ 助産記録	教育と指導(患者指導および小集団教育)	教育と指導(職員教育)	教育と指導(教育評価)、実習指導者講習	教育と指導(ケーススタディ)、看護管理ファーストレベル
教育	教育・指導 自己開発	助産師の継続教育・卒後教育 キャリアパス/クリニカルラダー	教育と指導(患者指導および小集団教育) キャリアカウンセリング	教育と指導(職員教育) キャリアカウンセリング	教育と指導(教育評価)、実習指導者講習 キャリアカウンセリング	教育と指導(ケーススタディ)、看護管理ファーストレベル キャリアカウンセリング
研究		・院内院外の学会や研究会の情報 ・自部署における研究活動の情報	・臨床で研究を行うことの意義 ・看護研究の方法(基礎:文献検索[実施含む]と文献の活用、データの収集と分析方法等) ・患者体験、ケーススタディ	・看護研究の方法(実践) ・研究計画書作成方法 ・学会参加	・研究計画書作成 ・プレゼンテーション ・学会発表	
コミュニケーション(対人関係)		・分娩介助から入院中、産後1か月健診までの受持ち事例の検討やOJT ・緊急時のコミュニケーション	・妊娠前から産後1か月までの継続受持ち事例の検討やOJT	・緊急時のコミュニケーションにおける中心的役割 *ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の計画立案とケア実践 ・外来保健指導	・妊娠初期・中期から産後1か月健診までの継続受持ち制 ・緊急時のコミュニケーションにおける中心的役割	・妊娠初期・中期から産後1か月健診までの継続受持ち事例をもとにした事例検討やOJT ・緊急時のコミュニケーションにおける指導的役割 ・事例検討の指導
倫理	社会性 助産倫理	・接遇(身だしなみ) ・職務規定 ・ICM-助産師の国際倫理綱領 ・日本看護協会-看護者の倫理綱領	・接遇(OJT) ・倫理原則	・生命倫理	・倫理的意思決定(対象) ・ケーススタディ	・倫理的意思決定(医療チーム) ・ケーススタディ
(マネジメント)	安全 経済性 リーダーシップ	・助産師に関連する法律 ・看護職賠償責任保険 ・リスクマネジメントの基本 ・災害対策の基礎知識 ・情報管理(施設内の情報管理規程、医療情報の取り扱い、対象への情報提供等) 業務管理・時間管理 ・院内助産システムと助産師の役割 ・所属する組織とその役割・医療提供体制 ・メンバーシップ ・目標による管理 ・チーム医療における助産師の役割や連携・協働のあり方	・産科医療補償制度 ・各種ガイドラインの活用 ・感染防止の基本行動 ・災害対策(OJT) ・薬剤管理(含む毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤管理)	・インシデント・アクシデント分析方法 ・感染対策(OJT) ・災害対策(OJT)	・インシデント・アクシデント分析(事例) ・災害対策(防災訓練の企画・実施・評価)	・産産と経済性 ・データに基づいた質評価 ・医療チームにおけるリーダーシップ